

これからの地球社会

さあ、いよいよ最後の章だ。この章では多様な文化を認めることの大切さ、日本の外交の現状と課題、日本と世界のつながりについての理解を深めるよ。

そして、地球上のすべての人びとが平和でハッピーな生活を送ることができるようにするためには、どうすればいいか。世界平和のためにどんな問題があって、どう解決に向かっているかを知ろう。

公民の勉強は、キミ自身の、さらに世界中の人びとの将来をよりよくするための知識、考え方を身につけることができる現実的なメリットが大きいものだ。ただのテスト勉強ととらえず、前向きに取り組む価値があることを知ってほしい。

この章のポイント!

「これからの地球社会」のキーワード

- ① 文化の多様性・政府開発援助 (ODA)
- ② 不法占拠・軍縮

理解を深めるエッセンス★

文化の多様性を認めること、**貧困**と兵器を減らすことが、異なる宗教や民族間での**紛争**を減らし、世界平和につながる。

62 文化の多様性

グローバル化の中の文化

この本で最初に勉強した「グローバル化」について、文化という視点で見よう。

人類は世界各地で、それぞれ異なった気候に**適応**しながら、長い歴史をとおして多様な文化を生み出してきた。このことを**文化の多様性**というよ。

それが近年では、グローバル化や情報化によって、異文化どうしの交流がさかんになって、人びとの価値観や生活が似通ったものになるという「文化の**画一化**」が進んでいる。スターバックスやマクドナルド、日本のユニクロやコンビニエンスストアは世界中に広がっているし、スマホでコミュニケーションを取り合う姿も日本だけではなく、いまや多くの国ぐにて見られる。

文化の画一化が進むということは、失われる文化もあるということだ。たとえば、世界には約6000の言語があるんだけど、このうち約2500が消滅の危機にある。言語とは文化そのものといえるから、どれだけ多くの文化が消えつつあるかわかるでしょ。

また、アフガニスタンでは、2001(平成13)年に当時のイスラム政権によって、バーミアンの石仏が破壊されている。戦争や**略奪**、公害、過度の観光化などによっても、貴重な文化がどんどん失われているんだ。

そこで、文化の多様性を守るために、国際社会ではいろいろな取り組みがおこなわれてきた。

UNESCOの提案によって結ばれた**世界遺産条約**は、世界の貴重な自然や文化財を**世界遺産**として登録して、保護するというものだ。2001年に採択された「文化の多様性に関する世界宣言」は、文化の多様性を「人類共通の遺産」として位置づけて、社会の発展や民主主義に欠かせないものであるとしている。世界各地の多様な文化は、人類社会の発展の源であって、貴重な財産だという意味だよ。

また、異なる文化の間で対話をして、協力し合っていくことが、世界の

平和と安全を守るためにいちばん有効なことだとされている。これなら僕らにもできそうなことだよ。

宗教や民族の多様性

世界では、キリスト教、イスラム教、仏教の三大宗教のほか、ヒンドゥー教、ユダヤ教などのいろいろな宗教が信仰されている。

多くの国では、異なる宗教を信じる人たちが、おたがいの信仰を尊重して、共同生活をしている。同じように、多くの異なった民族が共存している国や地域もたくさんある。

宗教対応の機内食の例

ヒンドゥーミール

牛肉を口にしないヒンドゥー教徒のために、食材に牛肉や豚肉を使わない。調理の際のアルコールも使わない。ゆでた魚や鶏肉、羊肉、魚介類、米、フルーツなどを使用。

イスラム教徒ミール

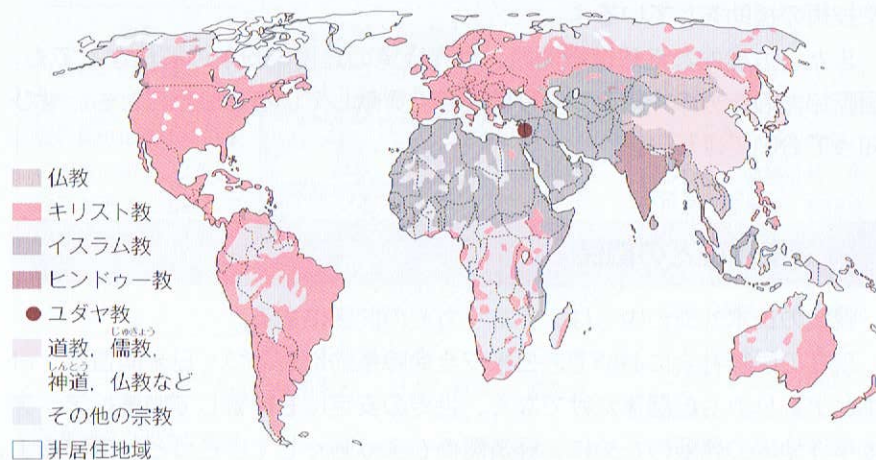
イスラム教の規定と習慣に従った内容。豚肉を使用した製品、ゼラチン、アルコールから抽出した成分や、ウロコやヒレのない海洋生物の肉は使わない。

でも、相互理解の不足によって、異なる宗教や民族の間で対立が起こっているところもある。そのような対立が、地域紛争やテロリズムの原因になっているんだよね。これらの対立を解決するためには、異なる宗教や民族の間で、対話や和解の努力が必要だ。

僕らは異なる文化に接したとき、それを受け入れることに消極的になってしまう傾向がある。でも、“異文化理解”は、世界の人びとが協力し、いろいろな国際問題を解決して、持続可能な社会を実現していくためには欠かせないことだ。

異なる文化を持つ人どうしが、おたがいを尊重しあって、学び合いながら、共存・共生していくことが求められているよ。

世界の宗教分布（「ディルケ世界地図」2010年版ほか）



テーマ

63 日本の外交の現状

日本の平和主義外交

第二次世界大戦後の日本の外交は、**平和主義**と**国際貢献**を重視してきた。なぜなら、日本国憲法の基本原理のひとつは平和主義であって、その立場を憲法前文と第9条にはっきりと記しているからだ。

そして、**日本の平和主義外交は、国連中心主義と非核の主張に表れている**。日本は、1956年に加盟してからずっと、世界の平和を守るための国際組織である国連の活動に協力してきた。

近年は、国連の平和維持活動（PKO）に自衛隊を派遣するなどの協力もおこなっているよ。「非核の主張」というのは、日本は広島と長崎への原子爆弾投下という悲劇を経験した世界で唯一の被爆国として、「非核三原則」をかかげて、核兵器をなくすことを訴えている。「非核三原則」、覚えてる？ 忘れてしまっていたらP.48を見直そう。

国際貢献については、**政府開発援助 (ODA)** として、途上国にお金や技術の援助をしているよ。

また、危機的な地球環境問題、世界経済の連携、紛争の解決などでも、国際協力のための枠組みづくりに大きく貢献しているということも、ぜひ知っておいてほしい。

近隣諸国との関係

戦後の日本外交の中心は、アメリカとの関係にある。

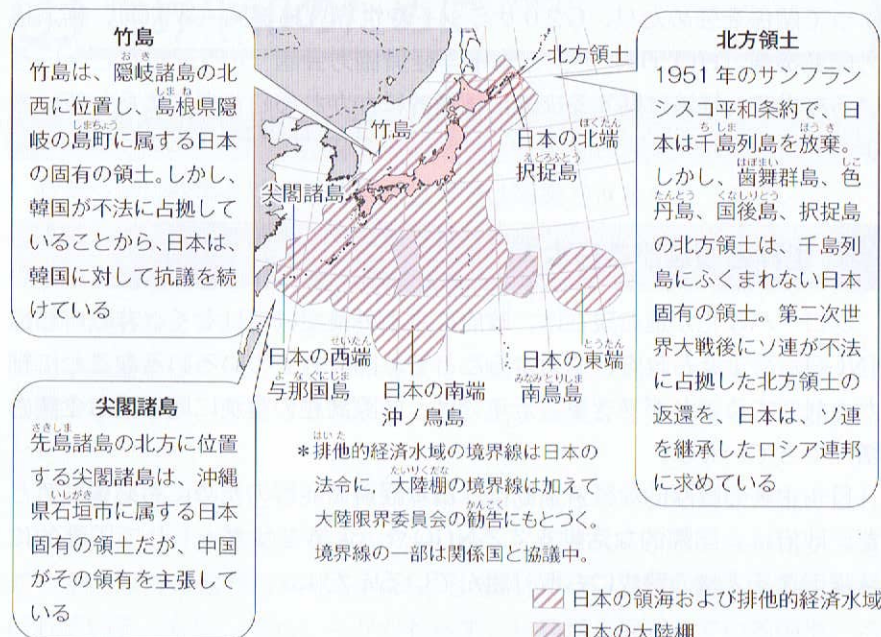
現在の国際社会において、日米安全保障条約にもとづく日米同盟は、日本とアメリカとの関係だけでなく、世界の安定にも影響している。アジア太平洋地域の発展のために、経済関係もより強くしていこうとしているよ。ただ、このような中で、沖縄の在日アメリカ軍基地の問題は、沖縄の人びとの願いに反して、なかなか解決に向かって進んでいないというのが現状だ。

もちろん、アメリカだけではなく、東アジアや東南アジアの国々にとの関係も重要だ。戦後の日本は、アジアの一員として、経済や文化など、多方面で関係が強化されるように努力をしている。

その一方で、解決すべき問題も山積みだ。昔からの日本の領土である**竹島**は、韓国によって不法に占拠されていて、日本政府は抗議を続けているけど、韓国政府は聞き入れていない。同じく、昔からの日本の領土である**尖閣諸島**も、中国が自国の領土であるという主張をし始めて、中国の船が日本の領海に不法に侵入をくり返している。

さらに、**北方領土**も昔からの日本の領土であるにもかかわらず、ロシア連邦が不法に占拠していて、日本は返還を求め続けている。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）にいたっては、核実験をおこなったり、ミサイルをつぎつぎに発射したり、日本人を拉致するなど問題行動が多いものの、解決のめどはたっていない。北朝鮮による日本人の拉致とは、日本人を捕まえて、無理やり北朝鮮に連れて行ってしまったことだよ。

日本の領域と排他的経済水域



テーマ

64 世界とつながる日本

経済関係の強化

グローバル化が進んで、各国どうしの相互依存が進む中、外交政策で特に重要になっている分野のひとつが、経済関係だ。

今までのような近隣諸国や先進国との関係だけでなく、世界経済の成長を支える新興国や、その他の途上国との関係も重要になってきている。

日本は、各国との経済関係の強化のために、日本企業や日本人が国際的な経済活動に積極的に参加できる仕組みづくりや、外国からのエネルギー資源や原材料、食料などの輸入に日々取り組んでいる。

また、このような政策の実現のために、関税などの貿易の制限をなくすための自由貿易協定 (FTA) や、サービスや投資、労働者の移動、経済

制度など幅広い分野で経済協力をするための経済連携協定（EPA）によって関係を強めたり、G20サミットや世界貿易機関（WTO）、経済協力開発機構（OECD）、アジア太平洋経済協力会議（APEC）など、いろいろな場で、経済に関する交渉に積極的にかかわることが求められているよ。

世界とつながる日本人

グローバル化が進む現在は、政府による外交だけではなく、非政府組織（NGO）や企業も政府と協力することで、国際社会のいろいろなことに細かく対応することができる。近年では、国際問題の解決に取り組む企業も増えてきているよ。

日本企業の国際的な経済活動は、日本経済の発展のためにも必要なことだ。政府は、国際的な活動をするNGOや、企業をサポートして国際的に活躍できる人材の育成にも取り組んでいるんだよ。

さて、これまで国と国とのかわりについて勉強してきたけれど、国際関係のいちばんの基本は、やはり人と人との関係だ。

日本人が外国人との関係をつくりやすくするために、文化交流を通じて相互理解を深めていくことも、重要な外交政策のひとつだ。日本と日本人について外国人に理解してもらうために、日本の文化や日本人の考え方をいろいろな方法で世界に発信していくことが必要だ。

またその一方で、留学や観光などで、日本に来てもらう外国人を増やすことも必要だね。

テーマ

65 世界平和のために

世界の平和をめざして

戦争や地域紛争を防ぐために、世界では軍縮が進められている。

軍縮とは、軍備の縮小、すなわち戦う力を減らすことだよ。特に、一度に多くの命をうばう核兵器、化学兵器、生物兵器などの大量破壊兵器を、この世からなくすることが重要だ。

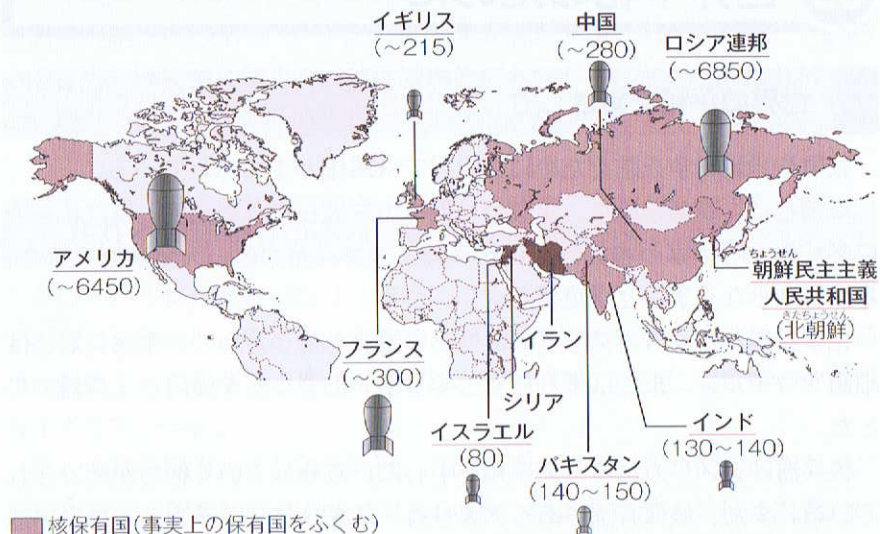
化学兵器とは、毒ガスなどの毒性化学物質を使ったもの、生物兵器とは、細菌やウイルス、またはそれらがつくり出す毒素などを使用した兵器のことだ。

核兵器はアメリカとロシア連邦を中心に、減らしていく努力が続けられている。また、核保有国であるアメリカ・イギリス・フランス・ロシア連邦・中国以外の国が核兵器を持つことを禁止する、核拡散防止条約も結ばれている。ただ、それにもかかわらず、核兵器を保有している国や、これから保有しようとする国があることが問題になっている。

通常の兵器も、開発によってその威力が強化されていて、大きな問題になっている。

戦争が終わったあとも一般人に被害を与え続ける地雷については、NGOの働きかけもあって、1997（平成9）年に対人地雷全面禁止条約が結ばれている。この条約に日本は参加しているものの、アメリカなど不参加の国もあるのが課題となっている。

世界の核保有国と保有数 (外務省資料ほかより作成)



■ 核保有国(事実上の保有国をふくむ)

■ 核開発疑惑国

— 核拡散防止条約で保有国として定められている国(5か国)

— 核拡散防止条約に未署名・脱退した国

🚀 核弾頭配備数
[2018年現在]

よりよい地球社会をめざして

なぜ、地域紛争やテロリズムが起こるのか。いろいろ理由はあるけど、共通しているのは貧困問題だったね。だから、先進国は政府開発援助(ODA)をおこなっているんだ。また、政府の援助が届きにくい分野では、非政府組織(NGO)と積極的に協力していく必要がある。

近年では、国だけでなく、一人ひとりの人間に着目して、その生命や人権を大切にするという「人間の安全保障」の考え方が国際社会で主張されるようになってきている。日本も、この人間の安全保障を外交方針のひとつとしているよ。

一般的に、平和は「戦争のない状態」とされていて、これを「消極的平和」という。でも、戦争で命を落とすのも、飢餓で死んでいくのも、生命をうばわれるという点では同じだから、世界の中の貧困や経済格差で苦し

む人びとも「平和ではない状態」にあると考えられるようになってきている。このような貧困や経済格差が改善、解消された状態を、「積極的平和」と呼んでいるよ。

「消極的平和」はもちろん、「積極的な平和」、本当の平和を実現して、持続可能な社会を築くためには、僕ら一人ひとりの意識と行動が必要だ。世界の平和をうばっているのは人間自身であり、それに対して、平和を築いていくことも僕ら人間にしかできないことだ。

僕らは、地域、日本、そして地球に暮らしているひとりの人間として、国境を越えて協力していくことが求められている。幸せな生活を送りたいという願いは、世界共通のものなのだから。